

目指す学校像	規則と秩序があり、笑顔あふれる学校・学び合い、高め合う、活力ある学校・美しく整えられ、安全で潤いのある学校
--------	---

重点目標	1 児童の実態を把握し、情報端末を活用した学習と個別最適な学びの推進 2 児童・保護者に寄り添った教育相談体制の構築と安心・安全な学校づくりの推進 3 コミュニティ・スクールとして異校種間の連携強化と地域・保護者との協働の推進 4 教職員一人ひとりが力を発揮できる環境づくりと、ワンチームで対応できる組織力の構築
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力学習状況調査やさいたま市の学習状況調査では、全国の平均値を下回っている。 ○日頃の学習の様子では、授業中は積極的に授業に参加し、意欲的に学習に取り組んでいる児童が多いが、単元ごとのテストやまとめのテストでは、平均に届かない児童が概ねどの学年にも2割程度いる。 〈課題〉 ○個々の学力の定着につながるような教師の指導力の向上及び、個々が課題意識をもって取り組めるような授業改善が課題である。 ○学習に取り組む態度もよく、学習すること自体は好きな児童が多いので、児童一人ひとりが自分に課題に向き合い課題解決に向けて自ら進んで取り組めるようにすることが課題である。	・個別最適な学びに向けた、タブレット等を活用した授業改善  ・個々の課題把握を徹底し、個にあった課題に取り組めるような学習形態の工夫改善	①算数を中心として、オクリンクやムーブノートを活用し児童一人ひとりが活躍できる授業を実践する。 ②スタディサプリやドリルパークを活用し、個々に習熟度を確認しながら学習できる時間を確保する。	①一人1研究授業を実践し、タブレットを活用した授業の実践について研究協議や教育委員会等の指導者の評価をうけ授業力の向上に取り組んだか。 ②スタディサプリやドリルパークを授業中だけでなく業前学習や家庭学習で活用したか。					
2	〈現状〉 ○学校評価アンケートや個々に行っている調査等では、学校が楽しいと答えている児童が9割を超えている。それに対して、先生が悩みを聞いているかという問いでは、肯定的な回答が、児童、保護者ともに昨年度よりやや減少した。 ○月1回の安全点検で出てきた修繕依頼や緊急時の対応等、もれなく対応してきた。 〈課題〉 ○形式的な面談を行ってきたため、学習面や教育相談的にも個々に寄り添った対応が十分にできていなかったことが課題である。 ○児童の交通事故が1件、不審者対応や放課後の公園等での怪我が数件あり、課外での対応等の指導が課題である。	・面談シートを活用した学習課題の設定とコーチングを活用した面談の実施  ・施設設備の定期的な点検と要修繕箇所に対するの早期対応の徹底	①学期に1回の面談と週3回の学習タイムを活用して児童と面談を実施するとともに、学習課題や解決に向けてコーチングを取り入れた面談を実施する。 ②児童との面談を受けて、6月と11月に保護者と個人面談を行い、学校と家庭で連携して児童の課題や成果等について共有し連携していく。	①コーチングを取り入れた児童との面談を通じて児童一人ひとりが自分の課題を自らいえるようになったか。 ②児童一人ひとりの課題について、個人面談を通して保護者と共有するとともに、面談結果について面談シートに記録を確実に行ったか。					
3	〈現状〉 ○昨年度3回の学校運営協議会を開催し、今年度の経営方針の承認と、協働して「あいさつ」について取り組むこと及び、学校としてタブレットを活用した個に合った学びの推進という方向性の確認ができた。 ○異校種間で取り組めることについて、保幼小や小中高で連携していく方向性の確認はできた。 〈課題〉 ○「あいさつ」は向上がみられた。引き続き取り組んでさらなる向上を目指すことと、地域に学校のことをもっと知ってもらうことが課題である。 ○異校種間での取組について少しずつ実施してきた。今年度も継続して実施するとともに交流する校種を増やしていくことが課題である。	・児童の様子をより多く見ていただけるよう、積極的な学校公開の推進  ・城南小を含めた柏陽中学区での、保幼小中高の積極的な異校種間の交流の継続	①学校ホームページの定期的な更新を行い、来校できなくても今児童がどのような学習に取り組んでいるのか把握できるようにする。 ②学校公開週間を学期に1回設けて、より多くの先生の授業や児童の活動の様子を見られるようにする。	①学校ホームページを週1回程度更新し、学校からの情報を発信することができたか。 ②学期に1回公開週間を継続するとともに、学校評価で学校公開等に係る項目の肯定評価8割以上にする。(今年度7割)					
4	〈現状〉 ○エバンジェリストを中心にタブレットの活用について積極的に研修を行い、ほとんどの教職員が授業でタブレットを活用できた。 ○働き方改革を推進し、ペーパーレス化による会議時間の短縮等業務の見直し等を進め、時間外勤務時間の削減を進めることができた。 〈課題〉 ○タブレットを活用し、ICTを活用した指導力の向上を図っていくことが課題である。 ○個々のタイムマネジメント力の向上に取り組む、より働きやすい職場を構築していくことが課題である。	・校内研修等を活用した教職員の資質向上に取り組む、組織的に働き方改革を推進する。	①高学年完全教科担任制を継続し、専科教員を含めたブロック会議を週1回導入することで、担任一人で背負いこむことなく、児童対応や学年ブロックの行事等の業務を分担してチームで行えるようにする。 ②引き続き中低学年でも、専科教員の授業を入れることで空き時間を確保し、教材研究や事務処理の時間を設けることで働きやすい職場を推進していく。 ③長期休業中に個々のタイムマネジメントに係る研修を実施し個々のタイムマネジメント力の向上を図る。	①週1回の高学年ブロック会議を適切に行い、児童の実態把握や生徒指導等の対応を組織的に進めることができたか。 ②教職員の時間外勤務時間年間360時間以内の教職員を9割以上にする。(昨年度8割) ③教職員個々のタイムマネジメント力向上に係る研修会を1回以上実施することができたか。					

